

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890500188
法人名	株式会社お茶屋の里
事業所名	グループホームはなれ茶屋
所在地	愛媛県新居浜市西の土居町二丁目8番21号
自己評価作成日	平成23年10月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>入居者、入居者家族と連絡を密にし、ホーム内でのレクリエーションにも度々参加頂いている。また花見やドライブ、外食などの外出支援の際にも多くの家族に参加頂き、その際に家族の思いを聞かせて頂いている。支援においては入居者一人ひとりに親身になって接することが出来る時間を大切にし、個別の対応に重きを置いて頑張っている。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>●法人の会長の自宅だった場所に開設したグループホームで、お庭は風情のある日本庭園で、調査訪問時にはみじも色づき始めており、季節それぞれに楽しめる。玄関にはいすを置いて、利用者が座ってくつの着脱ができるようにされている。職員手作りの木工にステンシルでトイレ、ユニット入り口・居室入口の表札を作っておられたり、又、風呂敷の柄を活かしたキルトのタペストリーを各所に飾っておられる。</p> <p>●「帰りたい」という気持ちになることが度々みられる利用者には、利用者の生活の様子等もみながら、就寝までに、だんだん明りを落とす等して雰囲気作りをして「生活のリズム」を整える等しながら支援されて、穏やかに生活ができるよう支援されている。</p>

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9, 10, 19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11, 12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームはなれ茶屋

(ユニット名) すみれ

記入者(管理者)

氏名 神野 晶子

評価完了日 平成 23 年 10 月 13 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価)	
			毎朝の朝礼時に、お茶屋の里の理念と信条、はなれ茶屋独 自の理念を全員で唱和している。	
			(外部評価)	
			事業所開設時に管理者は、「笑顔 誠実 ふれあい」と、事 業所理念を作成され、事務室等に掲示されており、朝礼時 に唱和されている。日々のケアの中の場面を捉えて、管理 者は、職員に理念に沿ってアドバイスをされている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価)	
			夏祭りで地域の子供達や地域住民をお誘いし、バザーを開 催した。遊歩道の散歩時に頂いたお花を育てたり、職員がボ ランティアで遊歩道の草取りをするなどして参加している。敬 老会には、地区の中学生に来て頂き合唱をしていただいた。	
			(外部評価)	
			散歩中に老人会の方達が花の苗をくださり、事業所でも大 事に育てられました。又、散歩中に知り合いになった近所の方 が、「自宅にちぎり絵を見に来ないか」と誘ってくださり、 近々、うかがう予定である。さらに、事業所にも来ていただ き、ちぎり絵を教えていただきたいと考えておられた。中学生 の合唱部が来てくれて合唱を披露してくれた際には、事前に 近所の方にもチラシを配って案内されて、数名の近所の方 が来られて、一緒に楽しまれた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通して積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議などで普段の支援内容をご連絡しているが、 開設時は介護業務が初めての新人スタッフが殆どで、職員 自身の認知症介護の勉強が先で、次々と入居してこられる 入居者の状態に右往左往し、業務に慣れる事で精一杯だっ た。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、毎月作成しているはなれ茶屋便りを見て頂きながら説明したり、介護福祉課などから、報告の仕方などの注意を受けたりしている。	
			(外部評価) 会議は、近くにある系列グループホームと3事業所合同で行っておられる。場所は法人本部の応接室で行われ、座席数のこともあり参加者が限られており、事業所のご家族等の参加には至っていないようだ。会議時には事業所からは、利用状況や外出やイベント等の行事報告を行い今後の予定を発表されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において、介護福祉課の方に出席頂いたり、地域密着会議に出席し市役所から意見を聴いたり注意を受けたりしている。	
			(外部評価) 市の担当者の方がボランティアを紹介して下さることもある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 玄関はいつも自由に出入り出来るように開けている。玄関にはセンサーを設置している。ベッドから転落の危険がある利用者の居室にもセンサーを設置している。また身体拘束事例について日頃より話題にし常に意識した支援に繋げられるよう取り組んでいる。	
			(外部評価) 身体拘束については、外部研修で勉強された職員が、研修時の資料等も用いながら、他の職員に周知するようになっていく。管理者は、日常生活の場面を捉えて「～なことも拘束になる」ということを職員に伝えておられる。調査訪問時、玄関は網戸にして庭の様子がよく見えるようになっていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日頃の支援の中で、利用者の尊厳が失われる事の無いよう、自分が利用者だったら職員にここをこう気遣って欲しいと思われる事は全力でやるように注意している。高齢者虐待については、どういう事が虐待になるのか話し合った。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 東予地区研修などに参加したり、実際にホームで最近成年後見制度を利用した利用者が居たのでその時に話題にした。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) その時点では十分したと感じているが、暫く経って話をした時伝わっていなかったのかと思うことが時々ある。文書にして渡しているが、家族も高齢だったり流して聞いている事も多く、十分理解出来ていない事があったりする。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ケアプランの見直し時に担当者会議に出席頂いたり、面会時にお話したり、外出行事、ホーム内行事に参加頂き、それを家族会にしたりしている。遠方の家族には電話にて要望や意見などを確認している。	
			(外部評価) 管理者は、ご家族の立場に立って、ご家族に安心してもらえるような報告や連絡に心がけ、信頼関係作りに取り組んでおられる。玄関を入った場所には、最近の様子を写した写真が掲示されており、ご家族に利用者の最新の様子が分かるようにされている。事業所便りには「お知らせ欄」を設けてご家族に向けたお知らせを載せておられ、季節の変わり目には、早めに衣類や寝具等の準備をお願いする等、ご家族が心配されるようなことは早めに伝えるように配慮をされている。現在、イベントと合わせて家族会を行っておられ、ご家族同士の親睦を深められるよう取り組んでおられるが、今後は、家族会の内容を工夫して、事業所のサービスについて具体的に意見や要望を引き出していかれてはどうだろうか。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月月末に社長や施設長から運営について説明がありスタッフ全員参加している。また毎月リーダーが参加して運営報告をして現場からの意見も報告している。	
			(外部評価) 職員のアイデアで、洗面所に炊飯器を設置して、お湯を保温しておき、清拭時、温かい布を使用できるようにされている。日々の申し送り時には、職員が実践しているケアのアイデアを出し合って、職員個々が対応のヒントにされている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修に積極的に参加勉強熱心な職員には、褒めたり労いの言葉をかけたりしている。また、勤務以外での支援に入った職員には時間外手当をつけている。賞与の時の評価にも反映している。	
			(外部評価)	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 日頃の講習や資格取得に対する講習への参加を金銭面でもバックアップしてくれている。勤務の中で研修を取り入れている。就業後にも地域での研修には積極的に参加している。	
			(外部評価)	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域での交流会や勉強会には参加して貰ったりしているが、今年は入居者の体調が落ち着かず、日常の支援に精一杯でゆとりがなく相互訪問が出来なかった。来年からは積極的に相互訪問などにも参加していきたい。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 帰宅願望の強い利用者には、少しでも不安が解消できるよう、思いを聞いて同調したり優しく寄り添ったしながら日常のいろいろな場面で一緒に生活していくことで信頼関係が構築出来るように務めてきた。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>担当者会議に出席して頂いたり、出席が困難な家族に対しては定期的に電話で利用者の日常をお話したり、毎月の現状をお手紙形式で担当者がお伝えしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>サービス導入時特に家族が困っていた事としては、利用者の精神症状である事が多いので、医療と連携する場面では家族にも同席して頂いたりしながら、これからの支援方法を一緒に確認して頂くようにしている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>お掃除を一緒にしたり、植物の水やりや買い物や散歩などを毎日一緒にしている。又外出支援して季節の花や木の葉の色の変化などを一緒に感じて貰うことで、職員も利用者も気分転換が出来たり季節の移り変わりを一緒に分かち合っている。</p>	
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人と家族が外出し易いように一緒に行ける外出行事を支援したり、入院中の家族の所に職員と一緒に面会に行ったりすることなど、いろいろな場面で家族も利用者も安心して貰えるようにしている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自宅が気になっている人には、自宅まで一緒に帰ったりして様子を見て頂いた。家族には度々面会に来て頂いているが、認知症と言うこともあり友人関係が切れてしまいがちである。その辺りの支援は家族との関係もあり難しいと感じている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご自宅の近所の方が別ユニットに入居されているような利用者もあり、時々会いに行っておしゃべりを楽しまれている。職員は、利用者が知り合いの方と電話できるよう取り次いだり、ご夫婦で入居されている方には、夫婦で過ごす時間を大切に支援されている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が新聞を読んで今日のニュースなどの題材をお茶の時間などに提供することで、利用者同士が話し易い雰囲気作りを考えている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 医療が必要になり、療養型などに入所された利用者家族には、退去後も数回面会に行ったり、電話等で近況を尋ねた事もあるが、退去後数ヶ月経つと退去当初のような連絡を継続するのは難しくなっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 職員目線で物事を捉えず、自分がいつも利用者の立場だったらどうして欲しいかという事を考えて支援するようにと伝えられているが、忙しいとつい自分の都合で動く職員もいる。 (外部評価)	
			入居時、ご家族に利用者ご本人の生活歴やこれまでの暮らしの様子をお聞きしてまとめておられる。入居後は、入浴や散歩の際等、職員は利用者1対1になるような時等を捉えて、思っておられるようなことを聞き取るようにされている。	日々の中でも利用者の状態に合わせて選んだり決めたりできるような場面を作ったりしながら、意思表示が難しいような利用者についても情報を集めて、思いや意向を探り、利用者主体の支援につなげていかれてほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 初回アセスメントで得られなかった情報は、その後の家族との話の中だったり、日頃の利用者との会話の中で見つけて追加事項として修正している。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一日の過ごし方は、ケアプランの中で時間を追って計画書の中に落とし、大体その時間で出来るように支援している。有する力については、出来るが増えていくよう、日頃の気付きの中で伝えられている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	(自己評価)	
			<p>介護計画については家族とは電話や面会時に、話合う事が多いが、本人とは改めて話し合うという状況を作るには困難な事が多く、日常の団樂の中でその人なりの考え方を方向で話を振る事が多い。</p>	
			(外部評価)	
			<p>3ヶ月ごとに介護計画を見直しておられる。見直し前には、ご家族にもできるだけ出席いただき、担当者会議を行い、モニタリング・評価を行っておられる。「帰りたい」という気持ちになることが度々みられる利用者には、利用者の生活の様子等もみながら、就寝までに、だんだん明りを落とす等して雰囲気作りをして「生活のリズム」を整える等しながら支援されて、穏やかに生活ができるよう支援されている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	(自己評価)	
			<p>日常記録をどの職員も全部読んでからその日の支援に入るのは困難なので、業務日誌に個人欄を作りその中に特に重要なポイントを書き込むようにし、それを読んでから業務に入るようにしている。</p>	
			(自己評価)	
		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族と一緒に出来る行事を増やし、日頃から本人、家族、職員の関係がスムーズに進むよう努力している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	(自己評価)	
			<p>地域の中学校の合唱団に敬老会で歌って貰ったり、その他の音楽やダンスなどのレクレーションに多くのボランティアに参加してもらった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>二週間に一回協力医に往診して貰っているが、入居時の説明で殆どの家族から協力医にお願いしたいとの要望があった。協力医以外の受診にも家族の協力を得ながら、柔軟に支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>協力医の往診があり、いざという時にも来てくださるようになっていて、利用者の状態で点滴が必要になる場合には、ご家族に付き添いをお願いするようなこともあり、ご家族と協力し合って支援されている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>看護職員は在籍していない。訪問看護に関しては現在検討しているところである。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入院時には、ホーム側から介護添書を作成し入居時の情報を渡したり、退院時は看護サマリーを頂いて情報交換している。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>現在も、癌(安定期)の利用者が入居中であるが、経管栄養になった場合は、現在のホームで生活を継続するには困難である事の説明をしている。重度化しても口から食事が出来ている間は、ホームで支援する事等の説明をしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>現在、他の介護施設へ申し込みをしているご家族もあり、事業所では、看とりを支援する体制には至っておられないが、今後、法人では医療連携体制について検討をされており、事業所では、利用者、ご家族の看とり支援についての希望等も聞き取りながら支援につなげていくことも考えておられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) AEDを設置している。職員全員で使用方法の実技練習をしているが、時間が経過してきている。急変時や事故発生時のマニュアルの確認はしているが、今後は定期的に訓練を行う必要があると感じている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災マニュアルを作っている。訓練については、10/12には台所からの出火による火災における避難訓練を消防署立会いの下行った。災害訓練は9/30地域の小学校の防災訓練に参加した。	
			(外部評価) 職員は、系列グループホームの職員とともに小学校で行われた地区の防災訓練に参加され、土のう作りを体験されたり、煙が舞っている場所から避難するような体験をされた。又、事業所での避難訓練には、昼間の火災を想定して行われ、消防署の協力も得て消火器の使い方を習ったりした。事業所は平屋で、又、近くに川があるようなことから災害時等に「建物内に居る方が安全である」と、消防署からアドバイスをいただいたようだ。	さらに今後は、時間帯や利用者の状態、職員の体制等、いろいろな場面を想定して訓練を重ねていかれてほしい。すべての職員が利用者を安全に避難させることができるよう方法を検討されたり、地域との相互協力体制作りにも取り組んでいかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 職員には、一人一人に丁寧で優しい声かけと認知症利用者への尊厳を守る事の大切さを朝礼などで伝えたり、研修にも参加して尊厳を守る事の大切さを勉強して貰っている。	
			(外部評価) 職員は、利用者の言葉や行動を否定せず、話をよく聞くことに心がけておられるが、時に、職員のペースで利用者に対応しているような場面や気になるような言葉かけもみられる。	職員が発する言葉について、利用者やご家族の立場から点検するような機会を作ってはどうだろうか。「利用者・ご家族は、どのように感じるか」「どのような言葉かけが適切か」話し合いを繰り返して職員のスキルアップを図り、事業所のケアの質向上を目指していかれてほしい。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員には利用者の思いに添って支援して貰っている。全体で動くのではなく、外出も少人数で出かけたり出来るように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく入居者に合わせた対応をしているが、体調が不安 定な入居者が居たりする時や、二人介助を要する入居者の 対応をしている時などは、職員のペースで動いていることが 多い。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 若々しいお洒落が出来るように声かけしたり、自分なりの服 を選んで貰ったり、自分で選べなくなっている入居者には、 いつも小奇麗にして貰えるように職員に心がけて貰ってい る。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 好みの味を把握し、味付けを変えてみたり形状を変えてみた りしている。又、食欲が減退している時は家族と相談して本 人の好みそうな食事を提供している。	
			(外部評価) 法人の厨房から食事が届くようになっており、事業所でうつ わを選んで盛り付けをされている。職員も利用者と一緒に同 じものを食べておられ、月に1回の食事検討委員会で感想を 出すようになってい。月1回は、手作りクッキングの日が設 けられており、利用者の希望を採り入れて、今月はいも炊き を作られた。祭りの日はバイキング形式の食事が厨房から届 き、利用者にはお寿司が人気だったようだ。入居時、食べ物 に好き嫌いのある利用者もおられ、ご本人用に事業所で食 事を作っておられたが、事業所の味付け等に慣れて来られ て、現在は皆と同じものを食べておられる。さらに、事業所の 食事支援については、利用者がさらに食事を楽しめるよう に、利用者の好みを反映するような日を増やされたり、ご家 族にも食事への希望や要望を具体的にお聞きしてみるよう な機会を設けてみてはどうだろうか。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 認知症の進行で水分補給が難しい利用者には、シュガー カットなどで甘めのお茶を出したりするなど、水分確保出 来るように務めている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後の口腔ケアなど毎回徹底している。今後は医療と連携 し、家族の同意があれば訪問歯科診療を導入していく予 定。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			利用者の排尿パターンを把握することで、少し早めのトイレ誘導をしている。トイレの場所が判らない利用者には、さりげない声かけでトイレまで誘導するようしている。	
			(外部評価)	
			昼食後、歯磨きの後にトイレに誘導されたり、夜間はおむつを使用している利用者も日中はトイレにお連れしてトイレで排泄できるよう取り組んでおられる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			牛乳、ヨーグルト、ヤクルトなど毎日の乳製品の提供や、散歩や歩行練習などで運動量を増やせるようしているが、なお便秘がちな利用者には医療と連携し服薬調整している。	
			(外部評価)	
			入浴について、同性介助を希望する利用者には応じておられる。お一人で入りたいと希望される利用者には、職員が脱衣所で見守る等して支援されている。浴槽をまたぐことが難しいような利用者には、職員が2名で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			入りたいと言う時間に入浴支援したいが、レクリエーションや歩行練習など全体的な時間を考えると、利用者が入りたい時間に入浴する事は困難な事が多い。	
			(外部評価)	
			入浴について、同性介助を希望する利用者には応じておられる。お一人で入りたいと希望される利用者には、職員が脱衣所で見守る等して支援されている。浴槽をまたぐことが難しいような利用者には、職員が2名で介助して、浴槽で温まれるように支援されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			日中の運動で活動量を増やし夜間眠れるように支援している。それでも昼夜逆転傾向の利用者は、医療と連携し服薬調整している。夜間せん妄もあり難しい事も多い。	
			(外部評価)	
			日中の運動で活動量を増やし夜間眠れるように支援している。それでも昼夜逆転傾向の利用者は、医療と連携し服薬調整している。夜間せん妄もあり難しい事も多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 毎日の薬の仕分けの時に、その都度用法や副作用を確認しながら仕分けするようにしている。体調に変化がある時は、職員間で報連相しながら医師に連絡し服薬の調整をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者の趣味を調べ、囲碁、将棋、トランプ、ハーモニカなどのレクリエーションを楽しんだり、植物の世話などで一日メリハリのある生活をして貰えるようしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節の変化を感じられるように出来る限り外出支援している。その際には、家族にも積極的に声をかけ、一緒に出かけたりしている。	
			(外部評価) 個別や少人数での外出が多く、日常的に遊歩道を散歩されたり、近くのショッピングモールに季節の変わり目には洋服を買いに行かれたり、おやつを食べに出かけておられる。ご自宅の犬を見に行くと落ち着かれるような利用者もあり、時々見に行かれています。ご家族のお見舞いにかれるような利用者もいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 買い物支援の時、出来る人には財布の中にお金を持って貰い、自分の財布からお金を出して貰えるようにしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 友人や家族への電話での支援はしている。手紙を書く事は難しい事が多い。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 季節毎のタペストリーで壁面を演出し、季節感を感じて貰えるようにしている。</p> <p>(外部評価) 法人の会長の自宅だった場所に開設したグループホームで、お庭は風情のある日本庭園で、調査訪問時にはもみじも色づき始めており、季節それぞれに楽しめる。玄関にはいすを置いて、利用者が座ってくつの着脱ができるようにされている。職員手作りの木工にステンシルでトイレ、ユニット入り口・居室入口の表札を作っておられたり、又、風呂敷の柄を活かしたキルトのタペストリーを各所に飾っておられる。居間の天窓は、ロールカーテンで光の調節をされていた。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ソファに座って自由にテレビを観たり、畳コーナーで横になって貰えるよう布団を置いたりしている。日中居室に戻らずに、畳コーナーに上がり横になってくつろいでいる利用者もいる。</p>	
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みの家具を持ってきて貰い、壁面も自由に使って頂いている。</p> <p>(外部評価) 事業所のパンフレットにも、馴染みのものを持ち込んでいただけよう記載されている。居室には、温度計を設置しておられ、冷暖房等の目安にされている。事業所では小さな掃除機を用意されており、利用者と一緒に掃除を行えるよう支援されている。入口の戸が少し開いている方が安心な方は、ご自分がかまぼこ板を置いて、少し戸を透かしておられた。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下、浴室、トイレには手すりを設置している。トイレは、自分で行ける利用者の為「便所」と分かりやすく表記したりしている。</p>	